

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590700205		
法人名	医療法人小西醫院		
事業所名	医療法人小西醫院 グループホーム安寧		
所在地	滋賀県守山市洲本町1256番地6		
自己評価作成日	令和2年10月22日	評価結果市町村受理日	令和2年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 株式会社平和堂和邇店2階		
オンライン調査日	令和2年11月11日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2020年4月、新規事業所として開設しました。他事業所より経験には負けるかもしれませんが、「ゆっくりほっこり」を合言葉に、ご利用頂く方が自宅での生活と同じように気持ちよく生活を送っていただけるよう支援させていただいております。日々の生活リハビリから、小西醫院の特色であるセラピスト(理学療法士等)との関わりにより、認知症を患ってもできる限り身体機能の維持を入所後もサポートさせていただける環境を整えております。また、ケアスタッフにおいても介護福祉士所有率70%を維持し、近隣医療機関との連携を図りながらご希望を叶える安心した看取りケアの実施に努めさせていただいております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2020年4月、第一次の新型コロナウイルス旋風の中で事業を開始している。3密の抑制が叫ばれ、多方面からの活動を制約されている中、ガラス越しやテレワークの活用、さらには消毒を徹底して隔離度の高い相談室を使用して安心度の高い面談を実現している。また外出不足からくる筋力低下を防ぐ目的で、理学療法士の指導によるリハビリでサポートし、生活維持力を高めている。コロナ禍の中に在っても、出来る事から一つ宛ではあるが、本来の介護に戻す努力をしている。創業して半年あまりの事業所であり、地域との交流等にはこれからという課題を抱えているが、それぞれに解決に向けた構想を持っている。新型コロナウイルス禍が収まりパワー全開出来るようになれば、期待出来る事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業の目的、事業所の理念を明確にして管理側から発信を続けている。開設より理念は浸透しつつあるものの、具現化、より深さのある実践に時間をかけ丁寧に行っていく。	職員の総意で作成された理念であり、並行して掲げている行動指針と併せ、毎月の全体会議の中で周知徹底を図ると共に、玄関等に掲示し利用者家族にも浸透を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	運営推進会議以外に、自治会含め意見交換を実施してきましたが、今般のコロナ禍での対応により現状は参加ができておりません。	地域の人々の立ち寄り場所の提供等を目指しているが、昨今のコロナ禍の事情もあって、地域との交流は出来ていない。現時点では各種講演会での介護情報の提供や認知症カフェの開催等の構想を温めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議以外に、自治会含め意見交換を実施してきましたが、今般のコロナ禍での対応により現状は参加ができておりません。自治会からは求められています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当初から書面開催となっておりが会議評議員の方をはじめ、家族の方の声を運営や介護の実践に生かすよう会議返信のあった内容を共有しています。	介護保険課員、自治会長、民生委員、地域住民、利用者家族で構成している。書面開催であるが多くの質問・意見は出ている。コロナ禍での外出不足により筋力低下するとの指摘を受け、理学療法で対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当事業所で不明な点、事故、苦情等報告の必要性がある事項にとどまらず、積極的な意見交換や照会に努めている。特に課題としてはないと考えています。	市の担当課や、地域包括支援センターとは報告等を含め各種の情報交換等で面談している。特に市職員とは運営推進会議の委員としての関与もあり、親密性は高まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については開設前の新任職員研修から既存研修まで実施しています。また身体拘束の有無の確認を全体会議で確認していく体制としています。防犯上の観点から外からの侵入については施錠扱いにしています。守山市確認済です。	研修を実施して拘束ゼロの意識を高めている。毎月の全体会議の中で、介護支援中での拘束に関する事例を互いにチェック検討している。家族了解のもと足下センサー等の使用事例がある。玄関の施錠については解錠の方向で検討を進めている。	防犯上の問題等を他の方法で代替することで玄関解錠の実現を望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最低年1回の研修の機会を持つと共に、職員へのチェックリストの活用やグループワークを活用しながら事業所全体としての認識や虐待防止が図られるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最低年2回の研修の機会を持つと共に、グループワークを活用しながら事業所全体としての認識や活用が図られるように共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧な対応に努めています。入居当日の契約をできる限りなくすことで、切迫感のない質問等にお応えできるよう適切な時間の確保に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主として運営推進会議や担当者会議についての意見は、早急にご意見として取り込みを行い、運営に反映させるよう努めています。	開設当初は面会等での来訪は少なかったが、家族の強い要望もありオンラインや相談室の利用、中庭のガラス越し等での面会の機会が増えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本毎月実施している全体会議やユニット会議については最低限管理者が参加することで、意見を収集することとしています。課題や提案を放置することのないよう努めています。	毎月のケア会議やユニット会議ではキャリアのある職員が体験に基づき意見を出し、間接的に若年職員の指導にもなっている。議事録はネット掲示板で公開して周知徹底を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、賞与支給等を含めての人事考課制度の活用や、体調面での不安がなく勤務できるよう衛生物品の確保等可能な範囲で整備ができるよう取組みをすすめています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設当初はOJTができませんでしたが、現在は新入職員が個別の能力に応じた目標や内容で取り組んでいただくこととしています。内部研修は基本毎月実施とし、コロナ禍において外部研修は一部再開しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、実施していきたい思いはありますがコロナ禍により基本電話やテレビ電話での相互訪問の機会に変えている状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前本人との面談や家族面談から本人の困っていることや支援してほしい項目をできるだけ入居前に把握した上で、安心した生活が送れるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前本人との面談や家族面談から本人の困っていることや支援してほしい項目をできるだけ入居前に把握した上で、安心した生活が送れるように支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前本人との面談や家族面談から本人の困っていることや支援してほしい項目をできるだけ入居前に把握した上で、安心した生活を送れるように支援しています。但し、他サービスを活用した事例はありません。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中の余暇の過ごし方が単なる役割分担にならないように配慮を行いながら、食事の配下膳や洗濯干し、掃除等を一緒に行うように支援を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居してからも家族との関係性を維持できるようオンライン面会等の実施を行ってきました。コロナ禍での面会は制限を行っていますが関係を維持できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居してからも友人等との関係性を維持できるようオンライン面会等の実施を行ってきました。コロナ禍での面会は制限を行っていますが関係を維持できるよう努めています。	フェイスシートやアセスメントシート等からの情報については把握出来ているが、外出を伴う案件は実施できていない。電話や手紙等での交流支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握することや職員が間に入って関わり合いを支援することはケアとして当然のことと認識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例があれば支援を行わせていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントで実施しているが担当者会議の開催により都度希望や意向の把握に努め支援につなげるように支援を行っています。	入居時に行うアセスメントやケア会議等で意向等を把握している。把握困難な事例の要因は異なるが、都度個々に対応し把握に努めている。本音を聞き出すために、聞き手やそのタイミング等を考え把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで実施しているが担当者会議の開催により都度希望や意向の把握に努め支援につなげるように支援を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時のアセスメントで実施しているが担当者会議の開催により都度希望や意向の把握に努め支援につなげるように支援を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議での本人や家族との話し合いを重ねながら、且つ職員でのカンファレンス等を行った上で計画を作成することとしています。	家族・本人の意向を聴取しカンファレンス後にユニット会議を経て介護計画を作成し、家族に説明し承認印を受ける。最初は1ヶ月後その後は3ヶ月毎に見直している。急変する場合は都度計画を見直すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申送り、余暇の活動状況も含めて記録に残し、情報を共有しながら行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時や入居後の家族の思いやニーズに対しての可能な限りの柔軟なサービスを、外出外泊、家族の宿泊等を実施したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントにより把握する事、自立した生活を送れるように支援することを職員での認識を深めることにより、支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携を図り、本人及び家族の希望を最優先で対応を行っています。また急な体調不良等にも対応できる体制としています。	利用者2名がかかりつけ医で受診しており、その他の利用者は運営法人の医師を主治医としている。看護師による日常的な健康管理は、法人の在宅診療チームとの協働で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間交代勤務であり伝達力に万が一のことがあつてはならない観点から、管理者及び計画作成担当者が情報を収集し、適切な医療と看護を受けれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報送付や電話での退院調整は継続的に実施しています。適切に医療機関へ情報が伝えられるよう事業所として情報を常に保持をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前から、入居時の説明含めその段階では決定していなくても、万が一のことが発生する前の段階、または状態悪化の際にきちんと説明を行っています。但し、コロナ禍により地域の関係者との支援は現在は実施できませんでした。	重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針を入居時に説明している。急変段階での体制や対応につき記載している。その際は介護と医療の協働で対応計画を作成し利用者家族の承認を受けることにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員に対しての応急手当や初期対応、心肺蘇生、AEDの使用等の訓練を実施しています。定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全利用者が避難できるように訓練を行っていますが、地域との防災協定もコロナ禍により進んでいません。訓練は昼間、夜間、火災、自然災害の想定で実施しています。	11月19日に、利用者を含めた避難訓練を夜間想定で計画している。地域との防災協定は構想段階で止まっている。マニュアルや備蓄品等(食料は10日分)は完備している。	地域との防災協定を進めて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施ができていますが、経験が長い職員こそ慣れてきた段階での言葉の雑がみられる場合があるため、定期的なチェックリストを通じて修正を行っています。	研修を通じて日頃の行動や言葉遣い、プライバシーの確保等につき振り返って見直している。また気づいた時に職員相互で注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン更新時は当然のことながら、利用者の個別に介護従業者の担当を配置し、適切に働きかけができるよう取組みをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の観点から、利用者が主役であり、個々のペースや思い、希望を把握しながら支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容についてはアセスメントのみならず、日々の関わりの中でのちょっとした希望やこうありたい姿をコミュニケーションを図りながら支援を行います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、食器の片づけや座ったままでトレイを拭く等の食事のみではなく楽しく摂食するために配慮を行っています。	献立と調理は業者に委託し、盛り付け配膳等で一部の利用者が参加している。食事介助はないが、必要な利用者には刻みや粥を提供している。外食の代わりに週1回テイクアウトを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や力、摂食量だけではなく体重のコントロール等も視野にいれながら、水分量を含め主治医とも相談を行いながら支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の支援を行い、口腔状態の観察や一部又は全部の支援を行っています。尚、状態により提携歯科医療機関への連絡調整などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本、原則的に布団、衣服の汚染0を目指して取り組みを行っています。理学療法士と共にトイレ動作の支援を介護に指導することにより利用者にとって負担の少ない介護を目指しています。	2名が自立排泄可能で、その他の利用者は、排泄パターンを使って声かけし、トイレでの自力排泄を支援している。オムツの利用者は無くりハビリパンツ16名で12名がパッド併用である。夜間も昼と同様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての入居前情報から運動の働きかけや水分摂取等により薬剤を主としてのコントロールから移行し始めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のタイミングにより支援を行っているものの、変更等の申し送りその他時間については職員の配置時間により支援を行っているところです。	週に最低2回の入浴を楽しんでいる。入浴剤等使用することもある。入浴を強く拒否するケースはないが、無理に誘わずにシャツを着替えましょうと声かけし、そのまま入浴してしまうケースもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングにより支援を計りながら、安心した気持ちで有職がとれるようにしている。消灯の時間を決めずに個別、日々の状況により支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報や副作用については共有をお混っている者の、変化について申し送りはしながらもまとめるのは計画作成担当が情報を収集しながら適宜指示をだしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニット内での画一的な全員に対するレクリエーション等にとどまらず、入居前のアセスメントの状況から個別の希望を叶える場として整え、支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度開設、開設時よりコロナウイルスにより戸外への希望により外出を控えて頂いているのが現状です。本来であれば地域のへの外出も積極的に行う予定でした。	本格的な外出は控える状況であり、代替策として内庭での軽い散歩や、理学療法士の指導も受けてリハビリ設備を利用して体操等を探り入れている。またデイケアが企画した祭りと運動会に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	IADLの維持として金銭管理や所持することへの理解は必要なことだと理解しているが、共同生活上の場として所持の有無でさえも他人への影響も考慮した上で現在は支援ができていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をするためのサポート、電話を受け取る為のサポートをはじめ、手紙等の支援も行わせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑の設置も含め、掃除も適宜させて頂いている中での本人への間取りを踏まえ、季節感を取り入れたリビング、家族像や背景のある居室づくりに取り組んでいます。	居室に囲まれた居間兼食堂がある。壁面にコスモスの花等の季節の飾り付けをしている。居間の一角に談話コーナーの場所を設けており、気の合った少人数での集まり等に利用している。トイレ、浴室等は清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのみではなく、和室、居間、談話ルーム等できるだけ画一的な場所に留まるだけでなく思い思いの場所で過ごすための支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの環境を可能な限り継続するため、可能な限り家族へのアプローチにより自宅の居室と同じような環境づくりにつとめています。	居室の床はフローリングで、ベッドとタンスは事業所の備え付けである。その他の家具や小物類やテレビを持ち込み、家族写真や趣味の作品等を掲示する等で、住み慣れた雰囲気作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護職員だけの力に関わらず理学療法士や看護職員の意見を聞きながら、安心且つ自立した生活のために支援方法を共有して行っています。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域との防災協定を進めて欲しい。	地域(地元自治会)との災害協力協定を締結する。	コロナ禍においても協定を締結し、双方の意識を結びつけることができるようにする。コロナの感染懸念が落ち着いた段階での地域を交えた防災訓練等を実施できるよう準備を行うようにします。	3ヶ月
2	6	防犯上の問題等を他の方法で代替することで玄関解錠の実現を望みたい。	現在、従業員玄関と共に運用している玄関であるが、離設事故を防止する観点、防犯上の観点から玄関施錠を行っており、玄関の施錠をソフト面から解決し解錠に繋げたい。	職員の見守りや支援、体制上の再確認を下半期中に再度実施すると共に、職員間の声掛けや危険予知についての訓練を実施します。施錠は行っていますが、内からは容易に解錠できる構造の為、外部からの情報保護と更衣室直結等の課題を解決できるよう努めます。	6ヶ月